

# 国立障害者リハビリテーションセンター 利用者募集のご案内 (自立支援局)

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局は、指定障害者支援施設で視覚に障害がある方への支援を行っています。

## 自立訓練(機能訓練)

「身の回りのことを自分でしたい」「自宅で家事を続けたい」「今の仕事を続けたい」「一人で暮らしたい」など、視覚に障害がある方一人ひとりのニーズにあった支援を実施しています。

- 白杖(はくじょう)を使用し、安全に移動するための歩行訓練を実施しています。見え方に応じて、夜間時の歩行訓練やロービジョン訓練も実施しています。
- また、掃除や洗濯、調理などの日常生活の訓練やスマートフォンで電話をかける、画面を見ずに音声で操作するなどの訓練も実施しています。



## 就労移行支援(養成施設)

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家資格の取得を目指した理療教育を実施しています。

- 単位を修得し、国家試験受験資格を得ることができます。専門課程は3年間です。所沢センターは高等課程5年間もあります。
- 卒業後の進路は、治療院開業、病院・施設、ヘルスキーパー勤務などです。卒業生がさまざまな分野で活躍しています。卒業後も技術向上のための研修会などを開催しています。



## 利用者募集

視覚に障害がある方で、お困りごとがございましたら、お近くのセンターへご相談ください。自立訓練(機能訓練)、就労移行支援(養成施設)の利用相談を受け付けています。

### 神戸視力障害センター



兵庫県神戸市西区曙町1070  
TEL:078-923-4670  
✉ soudan-kobe@mhlw.go.jp

### 函館視力障害センター



北海道函館市湯川町1丁目35-20  
TEL:0138-59-2751  
✉ shien-hkdt@mhlw.go.jp

### 福岡視力障害センター

福岡県福岡市西区今津4820-1  
TEL:092-806-1361  
✉ shienka-f@mhlw.go.jp



### 国立障害者リハビリテーションセンター

埼玉県所沢市並木4丁目1  
TEL:04-2995-3100(代) 総合相談課  
✉ rehab-soudan@mhlw.go.jp



# 視覚に障害がある方への配慮

ここでは、視覚に障害がある方に、ご安心いただくための方法をいくつかご紹介します。

## Q 困っていそうだが、どう声をかけたらいいの？

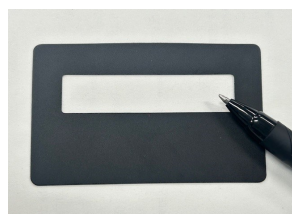
正面から「職員の△△ですが、何かお手伝いしましょうか？」というように話しかけてください。急に、身体や白杖(はくじょう)などを触れることや、横や後ろから話しかけると驚かせてしまいます。

## Q 代読はどのようにしたらいいの？

まず目次や全体の構成を説明し、その後に必要な箇所を読み上げます。その際は、要点をまとめることはせず、原文をそのまま読み上げます。

## Q 署名はできるの？

サインガイドと呼ばれる、黒い紙やプラスチックシートに細長い窓が空いた器具を使用すると書きやすくなります。記入枠に合わせることで、はみ出したり、曲がったりせず書けます。視覚障害者用グッズの販売店で購入できますが、黒い厚紙や牛乳パックなどを利用し、作製してもよいでしょう。



## Q どのように説明したらいいの？

具体的に伝えることが大切です。聞き取りやすいようにゆっくりと話しましょう。「ここ」「そこ」という言い方は避け、「〇〇に向かって右」などと説明すると、わかりやすくなります。物の位置については、時計の文字盤を例にとって、「〇時の方向に〇〇があります」という説明も有効です。



9時の方向にハサミがあります。

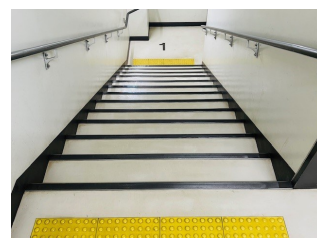
## Q 移動のお手伝いはどうしたらいいの？



移動介助する場合は、肘などを軽く握ってもらい、誘導する側が半歩先を歩きましょう。段差や階段の手前では「上り階段です」など、説明しながら移動しましょう。

## Q 危険を避けるための工夫は？

「階段のコントラストを良くして段差を確認しやすくする」「ぶつかりそうな場所にクッション材を貼る」など、危険を避ける工夫をすることが大切です。また、点字ブロック上に物を置かない、ロッカーの扉を開けたままにしないことなども大切です。



## Q 危険を避けるための工夫は？

視覚の障害状況に応じて、点字や拡大文字、音声版、テキストファイルなどの資料を作成しましょう。テキストファイルであれば、パソコンを使用し、音声化して読むことが可能です。

視覚障害=点字というイメージがあると思われませんが、点字の読み書きがスムーズに行える方は1~2割程度とされています。点字や音声版を作成する場合、点字図書館などへ相談することもよいでしょう。

また、晴眼者(視覚に障害がない方)が代読し、内容を読み上げる方法もあります。

